

令和元年11月8日
(2019年)

保護者の皆様へ

千里みらい夢学園
吹田市立竹見台中学校
校長 小林 太郎

平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

四領域すべてにおいて、全国値を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域では、日頃の学習の成果がよく表れた結果となった。

【話すこと・聞くこと】

- ・「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」ことを趣旨とした設問については、全国値を上回っている。また、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」ことを趣旨とした設問については、全国値をやや上回っている。これらの結果より、相手に伝わるように表現する力がついていると考えられる。

【書くこと】

- ・「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」、「論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」趣旨の設問については、正答率が高い。これらの結果より、客観的な根拠に基づき、論理を展開する力が養われていると考えられる。

【読むこと】

- ・三問中二問は、十分な正答率を得られているが、唯一全国値を下回った設問が「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」ことである。この設問については、無答率も高い。この設問から、読んだ内容を理解するだけではなく、それに対して自分なりの考えをもつという発展的な力が十分には育っていないことがわかる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・全国的に正答率の低い、封筒への住所と宛名を書く設問では、本校においても正解している生徒の割合が多くはない。日常生活においても、封筒で手紙を出す機会が少ないため、定着率が低いことがうかがえる。社会に出る前の一般常識として、手紙の書き方を再度確認しておく必要がある。

●国語科における成果と今後の改善点について

「根拠を明確にして書くこと」、「相手にわかりやすく伝える表現をする」力が、十分に培われていることがわかった。普段の授業の中で、自分が理解した内容を「相手にわかりやすく伝える」ために、工夫を凝らしたプレゼン活動を行ってきた結果が表れていると考えられる。また、生徒へのアンケートで、「国語の授業中に自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように根拠を示すなど、話や文章の組み立てを工夫しているか」という設問に対して、肯定的な回答をした生徒が多かったことから、生徒自身の意識にも「わかりやすく伝える」ことの重要性が根付いていることがわかる。

今後の課題として挙げられるのが、「読むこと」の項目で無答率が多かった「文章を読み、自分の考えをもつ」力を養うことである。文章に「何が書いてあるか」を読み取ることにとどまらず、筆者の考えに対して「自分はどう思うか」という評価を行っていくことで、培うことのできる力であると考え。今後の授業で、積極的に取り入れていきたい。また、手紙の書き方についても、再度学習を行っていく。

●数学《概要》

四領域すべてにおいて、全国値を上回っているが、図形と資料の活用に関する設問では、全国値をやや下回るものもある。

【数と式】

- ・多くの設問において、全国値を上回っており、学習内容が定着していると思われる。しかし、事柄が成り立つ理由を説明することは、全国値を上回っているものの、無回答率が高く課題がある。

【図形】

- ・平行移動の意味を理解しているかを問う設問の正答率が高い。
- ・説明を求められた記述式の設問については、全国値をやや下回り、無解答率も高い。

【関数】

- ・全ての設問において、全国値を上回っている。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問は、全国値を上回るものの、他の設問に比べ正答率は低い。

【資料の活用】

- ・多くの設問において、全国値を上回っているが、最頻値を求める設問については、全国値をやや下回っている。
- ・説明を求められた記述式の設問では全国値を上回っているが、正答率は低めで、他の設問に比べ無解答率が高い。

●数学科における成果と今後の改善点について

- ・全ての問題で、大阪府の平均正答率を上回っている。また、多くの設問で全国値を上回っているが、図形と関数、資料の活用の設問で正答率が全国値をやや下回る設問がある。説明を求められる設問では、正答率が低く、無回答率が高い傾向がみられる。数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるように、ノートに書くことを意識させるなど、設問を解く過程を大切にし、より数学的思考を高めていけるような授業を地道に展開していきたい。
- ・文字を用いて処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明する力、証明を書く力をつけるために、処理の手順を数学的に考察する、場面を設定するペアワークやグループワークなど学びあいの活動を取り入れていくなど授業の工夫を図っていく必要がある。今後も問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明をするような場面を取り入れていきたい。

●英語《概要》

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の三領域については、全国値をやや上回っており、日頃の学習の成果が表れている結果となった。

【聞くこと】

- ・ほとんどの設問について、全国値をやや上回っている。
- ・「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる」趣旨の設問については、一部課題がある。

【話すこと】（参考値）

- ・「話すこと調査」については、参考値としてではあるが、全国値を下回っている。

【読むこと】

- ・ほとんどの設問について、全国値をやや上回っている。
- ・「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」趣旨の設問については、一部課題がある。

【書くこと】

- ・ほとんどの設問について、全国値をやや上回っている。
- ・「与えられたテーマについて考えを整理して、まとまりのある文書を書く」ということに関しては、ある程度の力を有すると捉えることができていると考えられる。
- ・「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」ということに関しては、課題がある。

●英語科における成果と今後の改善点について

全国学力・学習状況調査において、英語の調査が行われるのが今回初めてであるため、過去の調査と比較して分析は難しいものの、全国等の正答率との比較で本校の課題も見えてくる。

全般的にどの学習分野においても全国および大阪府の平均正答率を上回る結果ではあるが、各分野における特徴的な力を示す結果が見られない状況である。課題としては、記述式の問題に対して、無回答率が高くなる場所であり、自分の意見をまとめ、その内容を適切な英文として記述して表現する力をつけていく必要がある。授業で習得した語彙、文法事項、表現等を、自分で英文にして表現するという取り組みを定期的に取り入れていく必要がある。

また、今回は参考値ではあるが、「話すこと調査」については、全国値を下回っており、「話すこと」には課題がある。今後、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を行う場面を取り入れていきたい。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【家庭生活】

- ・朝食をほぼ毎日食べている生徒の割合は全国値とほぼ同じである。
- ・学校での出来事を家庭の話題にしている生徒の割合が全国値をやや上回っている。
- ・地域の行事に参加している生徒の割合が全国値をやや上回っている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に就寝、起床している生徒の割合は全国値をやや上回っている。

【自己肯定感】

- ・自分には、よいところがあると思っている生徒の割合が全国値をやや上回っている。
- ・先生が自分の良いところを認めてくれていると思っている生徒の割合が全国値をやや上回っている。
- ・生徒全員が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合が全国値をやや上回っている。

【家庭学習】

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が全国値を上回っている。
- ・家で、学校の宿題をしている生徒の割合については、全国値を上回っている。
- ・家庭学習を1時間以上行っている生徒の割合は極めて高いが、30分より少ない生徒や全くしない生徒もいる。

【学校生活・授業】

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、取り組んでいた生徒の割合が全国値をやや上回っている。
- ・自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している生徒の割合が全国値を上回っている。
- ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると考えている生徒の割合が全国値をやや上回っている。

3 今後の取り組み

本調査の各教科の設問ごとの分析や、生徒質問紙からの学習環境状況を重ね合わせて分析した結果、今後も改善に向けた取り組みを引き続き進めていきたいと考えます。

学習に対する取り組みについては、家庭学習や計画的な学習に向かう姿勢、学習活動の振り返りについての課題改善に向け、本校においても授業規律・生活規律を確立したうえで、きめ細やかな指導を継続し、学ぶ意欲を高める授業づくり、わかる授業の工夫など具体的な指導法の改善に取り組んでいきます。

また、基本的な生活習慣を確立し、自尊感情や自己肯定感を高め、自信を持って、自主的に学習に向かう姿勢を育てていきたいと考えております。生徒の自立と幅広い学習の機会をつくるため、今後ともご家庭・地域と連携して教職員一同努力してまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。